

三菱自動車工業株式会社

株主のみなさまへ



平成22年度(2010年度)のご報告
2010年4月1日~2011年3月31日

株主通信 ROUTE

Drive@earth





取締役社長

益子 修

目次

ごあいさつ	1
決算の概要	2
新中期経営計画「ジャンプ2013」	4
「i-MiEV」のグローバル展開と 「MINICAB-MiEV」の投入	7
ショールーム	9
財務諸表(連結)	11
財務諸表(単独)／会社の概要	13
役員／株主メモ	14

平素は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

2011年3月11日に発生した東日本大震災によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申しあげますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申しあげます。

さて、2010年度(2010年4月1日から2011年3月31日まで。以下、当年度)は、成長を続けるアジア・アセアン諸国などの新興国に牽引され、世界経済は緩やかな回復傾向にありました。このような中、当年度実績は、前年度比で販売台数の増加に加え、前年度に引き続き増収増益を達成し、震災影響はあったものの経常利益および当期純利益は公表の計画値を上回りました。

しかしながら、配当につきましては、株主の皆さまには大変申し訳なく存じますが、当年度も実施を見送らせていただきました。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

また、2011年1月20日に2011年度から2013年度の3年間の中期経営計画「ジャンプ2013」を発表しました。当計画では、新興市場と環境対応へ経営資源を集中し、収益レベルの底上げを図り、「成長と飛躍」を目指します。

どうか皆さまにおかれましても、今後とも倍旧のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2011年6月

三菱自動車企業理念

大切なお客様と社会のために、走る喜びと確かな安心を、
こだわりをもって、提供し続けます。

当社は三菱グループ共通の経営指針である「三綱領」*の精神を受け継ぐとともに、当社の存在意義と進むべき方向を明確にするため、「三菱自動車企業理念」を制定しています。全ての企業活動はこの企業理念に基づいて進めています。

*「所期奉公」、「処事光明」、「立業貿易」

円高影響を台数増、コスト削減で打ち返し増収増益を達成

当年度の連結売上高は、市場の回復や新型車投入効果などにより販売台数が110万5千台と、前年度比14万5千台(15%)増加した結果、円高進行の影響はあるものの3,829億円(26%)増収の1兆8,285億円となりました。営業利益は、円高影響を台数・車種構成等の改善や資材費等コスト低減で打ち返し、前年度比264億円増加の403億円と3倍近い増益となりました。経常利益および当期純利益も前年度比それぞれ259億円増加の389億円、108億円増加の156億円となり、大幅な増収増益となりました。

2010年度計画に対しては、東日本大

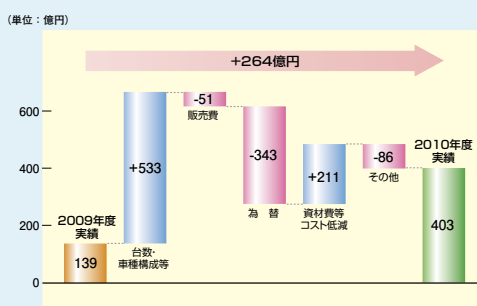
震災の影響による卸売台数の減少などにより、売上高と営業利益は計画値に届きませんでした。経常利益と当期純利益は計画値を上回りました。

2011年度の業績見通しについては、東日本大震災の影響により安定的な生産が困難なお取引先部品メーカーの復旧状況や今後の電力供給等の問題など、当社の生産に影響を及ぼす不透明な外的要因もあることから、合理的な業績見通しの算定が困難と判断し、2010年度決算発表時(2011年4月27日)には「未定」とさせていただきます。2011年度業績見通しについての情報は、当社ウェブサイト*をご覧ください。

2010年度実績 (前年度比)

	2009年度 実績①	2010年度 実績②	差 ②-①	(単位: 億円、千台) 2010年度 計画 (2011年2月2日公表値)
売上高	14,456	18,285	▲+3,829	19,000
営業利益	139	403	▲+264	450
経常利益	130	389	▲+259	300
当期純利益	48	156	▲+108	150
販売台数(小売)	960	1,105	▲+145	1,124
販売台数(卸売)	805	1,045	▲+240	1,070

2010年度営業利益 変動要因分析 (前年度比)



*三菱自動車ウェブサイト 決算情報

http://www.mitsubishi-motors.com/publish/ir_jp/finance_result/financial/index.html

新型車の投入が功を奏し、海外販売が好調に推移

2010年度の販売台数は、海外で販売が好調に推移し、前年度比15%増加の110万5千台となりました。

日本では、上半期で前年同期を上回りましたが、下半期はエコカー補助金の終了や東日本大震災の影響などにより減少に転じ、16万4千台と前年度比で4%の減少となりました。**北米**では、カナダおよびメキシコで減少となりましたが、米国で2010年10月に「アウトランダースポーツ」（日本名「RVR（アールブイアール）」）を投入したことにより、9万4千台と前年度比7%の増加となりました。**欧州**では、好調なコンパクトクロスオーバー「ASX（エーエスエックス）」（日本名「RVR」）が牽引するとともに、「アウトランダー」の現

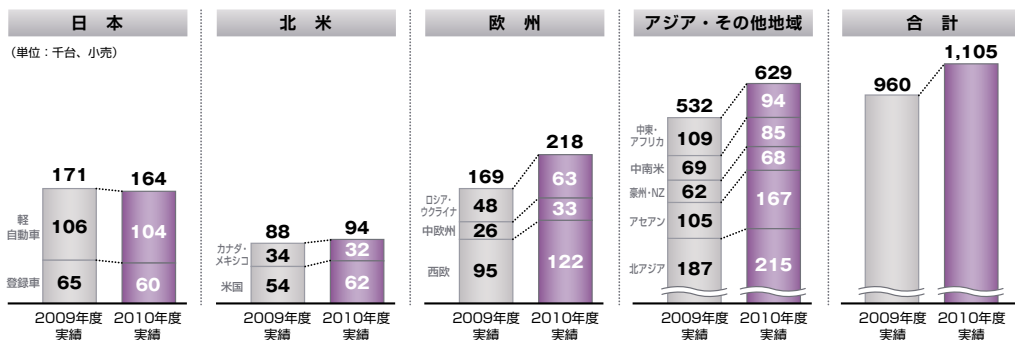
地生産を開始したロシアでの販売増もあり21万8千台と前年度比29%の増加となりました。**アジア・その他地域**では、62万9千台と前年度比18%の増加となりました。中国では前年度比約2割の増加となり、アセアン地域では、倍増となったタイを始めインドネシア、フィリピン、マレーシアなどの主要国でSUVが台数を伸ばし、前年度比で約6割の増加となりました。豪州・NZ*では前年度比約1割増、中南米でも最大市場のブラジルの伸長などにより2割を超える増加となりました。

*NZ: ニュージーランド



日本名「RVR」をグローバル展開

2010年度地域別販売台数 (前年度比)



新中期経営計画「ジャンプ2013」がスタート

2011年1月20日、2011年度から2013年度までの3年間にわたる新中期経営計画「ジャンプ2013」を発表しました。当計画では、「需要が急拡大している新興市場」と「全世界的に関心が強まる環境」へいち早く対応し、持続的成長を図ってまいります。変化の時代には、より早くその変化に対応する企業が力を発揮します。当社は、「三菱自動車再生計画」と「ステップアップ2010」の2つの中期経営計画の実行を通して、成長に向けた企業体質の転換を図ってまいりました。当計画では、この変化の時代をむしろチャンスと捉え、「経営資源の集中」と「持続的

な改革」をさらに進めてまいります。

事業戦略としては、まず「新興市場」と「環境対応」に経営資源を集中させ、新興市場でのニーズが高い小型・低燃費・低価格の世界戦略車「グローバルスモール」を投入するとともに、電気自動車やプラグインハイブリッド車を始めとした環境対応技術を一層強化してまいります。そして、コスト構造の抜本的な改革には新たな組織を設立して取り組みます。また、収益拡大のため今後も他社との事業提携を積極的に推し進めるとともに、経営基盤の強化を図ることで「成長と飛躍」を目指します。

「ジャンプ2013」 のポイント

- 基本方針
- 事業戦略

「成長と飛躍」

- 新興市場と環境対応への経営資源の集中
- コスト構造の抜本的な改革
- 事業提携による収益拡大機会の追求
- 経営基盤の強化

地域のニーズに応えた商品戦略を推進

今後需要の伸びが期待できる新興市場に向けては、中間所得層向けの低燃費・低価格の小型車「グローバルスモール」を2011年度に投入します。このモデルは



「三菱コンセプトグローバルスモール」

成熟市場の小型・低燃費志向にも十分に考えられると考えております。さらに、新興市場の使用環境に適した実用モデルとして、当社が得意とするSUVのラインアップを強化し、当計画の最終年度である2013年度に新興市場では2010年度比で27万台増加の78万台の販売を目指します。



「パジェロスポーツ」(タイ生産車)

また、需要の増加に応えるためタイを日本に次ぐ第二の輸出拠点と位置づけ、第3工場を建設し2012年3月から「グローバルスモール」の生産を開始します。中国では新

合弁会社を通じた生産能力の増強を図り、ロシアでは新型SUVの生産を開始します。

一方、成熟市場では、環境対応車として新世代電気自動車「i-MiEV (アイ・ミーブ)」を2009年度に発売し、日本・欧州をはじめ各国で高い評価を得ております。2012年度にはプラグインハイブリッド車を2車種新規投入し、2015年度までには電気自動車とプラグインハイブリッド車を合計8車種投入し、電動車両のラインアップを充実させてまいります。既存のエンジンについても燃費向上へ向けた改良を進め、ガソリンならびにクリーンディーゼルエンジンの進化を図るとともに、当社独自で開発したコスト競争力の高いハイブリッドシステムの導入を検討しております。成熟市場では、2013年度に2010年度比で11万台増加の59万台の販売を目指します。



欧州でも好評の「i-MiEV」

グローバルレベルで競争力を高め、収益力を強化

当社は、すでにPSA プジョー・シトロエン社と商品供給やロシアでの工場運営などの業務提携を進めており、日産自動車とは軽自動車の商品企画・開発に関する合弁会社の設立に加え、タイにおけるピックアップトラックの生産・開発協力など協業の拡大を検討しています。今後も他社との提携・協業を積極的に推進し、収益機会の増大と収益力の強化につなげてまいります。

一方、地域のニーズに応える競争力の高い商品をお届けするうえで、さらに品質を高めていくことが重要と考えております。当計画では、今後生産量が増加する新興国での生産増強に対して、三菱ブランドの品質レベルを確保する体制を、

三菱自動車生産方式や品質管理方式の海外工場への展開や海外工場支援人材バンクの創設などを通じて、全社レベルで構築してまいります。さらに、社長直轄のコスト低減推進組織を設立し、海外からの部品調達拡大や海外生産拠点との連携を強化するなど、グローバルレベルでのコスト競争力を確保するために取り組みます。

当社は、当計画の着実な遂行を通じ、売上高の増加とコストの削減をグローバルレベルで実現し、当計画の最終年度である2013年度には、以下に示す業績目標の達成に取り組み、財務基盤を強化し復配を目指してまいります。

業績目標

	2010年度 実績	2013年度 業績目標
販売台数（小売） 新興市場 成熟市場	987千台* 507千台 480千台	1,370千台 780千台 590千台
売上高	1兆8,285億円	2兆5,000億円
営業利益	403億円	900億円
当期純利益	156億円	450億円

*2011年度からカウント方法を変更（旧カウント：1,105千台）
カウント方法の変更点：三菱ブランド車以外は小売台数から除く

「i-MiEV」のグローバル展開と「MINICAB-MiEV」

2009年7月から販売を開始した新世代電気自動車「i-MiEV(アイ・ミーブ)」は、2011年3月末までに国内外で累計約1万台を出荷しています。2011年秋には車体の幅を広げた「i-MiEV」を北米市場へ、2011年内に軽商用

電気自動車「MINICAB-MiEV(ミニキャブ・ミーブ)」を国内に投入し、2011年度は「i-MiEV」、「MINICAB-MiEV」をあわせ、世界で2万5,000台の販売を目指しています。本格的な電気自動車の時代へシフトアップ!

環境性能に加え、安全性も高く評価

ドイツADAC※1とユーロNCAP※2によるそれぞれの衝突試験の結果、「i-MiEV」はその安全性に高い評価をいただきました。量産電気自動車としては初の安全性に関する評価となりましたが、大容量のバッテリー・パックのダメージは無く、乗員や救助者の安全性を確保するための高電圧システムの遮断装置も問題なく機能し、安全性に優れた電気自動車であることが確認されました。

※1: ドイツADAC: ドイツのドライバーサポートを目的とした欧州最大の自動車連盟

※2: ユーロNCAP: 欧州の新車を対象に安全性能を総合評価する団体



「i-MiEV」(欧州仕様)

お客様の声

in 欧州



オランダ
Ewic B.V.
Amsterdam,
The Netherlands

「i-MiEV」を手に入れることができ、とても喜んでいます。

地球温暖化問題はまだまだ人々から軽視されていると感じていますが、私は電気自動車の必要性を信じています。私は毎日の通勤に走行中CO₂排出のない「i-MiEV」を使い、環境に優しい走りを実現しています。



オーストリア
Spar austria
Salzburg, Austria

当社は、「i-MiEV」を社有車として導入。環境保全型店舗とあわせ、未来とよりよい環境のシンボルとします。

スウェーデン
Falu Energy och Vatten
Falun, Sweden



オーストリア
OAMTC Austria association
Vienna, Austria



EVポータル(<http://www.ev-life.com/>)の「世界に広がるi-MiEV」で世界のお客様からの声をご覧いただけます。

2011年秋から北米市場に「i-MiEV」を投入

米国では、2011年秋の本格発売に先駆け、2011年4月22日のアースデイに北米仕様の「i-MiEV」の予約受付を開始しました。また、2011年2月にイリノイ州、およびブルーミントン・ノーマルEVタスクフォース(イリノイ州ブルーミントン・ノーマル市と市内主要企業団体で組織)とそれぞれ覚書を締結し、それぞれが協力し実証試験をはじめとした現地での電気自動車の普及促進へ向け取り組んでいます。



「i-MiEV」(北米仕様)

新世代電気自動車の第2弾、 「MINICAB-MiEV」の予約を開始

**MINICAB
MiEV**

2011年内に、デビュー予定。

軽商用車「ミニキャブバン」をベースにした「MINICAB-MiEV」は、「i-MiEV」に続く新世代電気自動車の第2弾です。「i-MiEV」で得られた技術やノウハウを最大限に活かし、商用車として要求される実用性や走行性能を確保しています。2011年4月より予約受付を開始しています。



実証試験車

ワンコイン おためしアイ・ミーブ キャンペーン



EVポータルサイト
<http://www.ev-life.com/>

三菱自動車では、皆さまに「i-MiEV」を手軽にお試しいただくため、1時間500円のレンタルキャンペーンを行っています。お近くの販売店にお問い合わせの上、事前にご予約ください。

※一部の販売店では実施していない場合があります。
※予約窓口はEVポータル内キャンペーンサイトをご覧ください。

災害支援車両として約90台の「i-MiEV」が活躍

三菱自動車では、東日本大震災により被災された皆さまへ義捐金を拠出するとともに、被災地域の自治体のニーズに応じ、災害支援車両として「i-MiEV」などを無償貸与しています。今後も支援物資を提供するなど、一日も早い復興に向けグループを挙げて全力で支援してまいります。



RVR ROADEST誕生!!

(アールバイアール ロードスト)

RVR
ROADEST

所得税・消費税込
50%
減税



「G」(4WD)

ロードストシリーズが充実

OUTLANDER (アウトランダー
ロードスト)



所得税・消費税込
75%
減税

「20G」(4WD)

D:5 (デリカディーファイブ
ロードスト)



所得税・消費税込
75%
減税

「G-Premium」(2WD)

コンパクトSUV「RVR」にエアロ仕様の「RVR ROADEST」誕生

2011年6月2日からコンパクトSUV「RVR (アールバイアール)」のスタイリッシュなエアロ仕様モデル「RVR ROADEST (アールバイアール ロードスト)」を発売し、「アウトランダー」と「デリカ D:5」でも人気のロードストシリーズに、またひとつ新

しいモデルが加わりました。「RVR ROADEST」は、都会的でオンロードテイストなスタイリングを実現するとともに、上質でありながらスポーティな内装としています。



カタログのご請求・お近くの販売店検索は…
三菱自動車 お客様相談センター



0120-324-860

月～金:9時～17時

土・日:9時～12時・13時～17時

広くて、使える、コンパクト1BOX「デリカD:2」を発売

2011年3月10日からコンパクトなボディながら広い室内空間、後席両側スライドドアや多彩なシートアレンジなど便利な機能を満載したコンパクト1BOX「デリカD:2」を発売しました。「デリカD:2」は、クラストップ※1の低燃費22.5km/ℓ※2を実現し、全グレードでエコカー減税75%に適合しています。

DELICA
(デリカディーゾー)

75%
減税



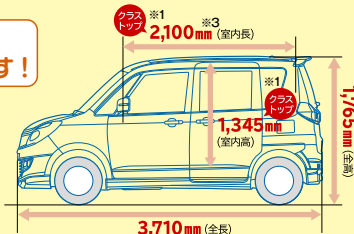
デリカD:2「S」(2WD)



HELLO KITTY ©1976,2011,SANRIO CO.,LTD. APPROVAL No.GS20348

クラストップ※1の室内長・室内高です!

Big



※1:クラス=コンパクトハイトワゴン(総排気量1.5ℓ以下・全高1,550mm以上の2列座席5ドアワゴン)。2011年2月現在、自社調べ。

※2:「G」グレードの10・15モード燃料消費率。

※3:「G」グレードは2,130mm。

ミツビシ
愛着力

ミツビシは、あなたとクルマの「ずっと」のために。

詳しくは愛着力サイトをご覧ください!

愛着 **クーポン** プレゼント!!

三菱のおクルマにお乗りいただいているお客様に、感謝の気持ちを込めたお得なクーポンです。



愛着会員も
募集中!!



愛着力サイト <http://aichaku.jp/>

www.mitsubishi-motors.co.jp/purchase/

携帯電話からも
お近くの販売店を検索できます



財務諸表(連結)

連結貸借対照表

資 産			負債及び純資産		
科 目	前年度末 (平成22年3月31日現在)	当年度末 (平成23年3月31日現在)	科 目	前年度末 (平成22年3月31日現在)	当年度末 (平成23年3月31日現在)
	百万円	百万円		百万円	百万円
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	264,323	317,097	支払手形及び買掛金	265,028	278,595
受取手形及び売掛金	121,385	114,432	短期借入金	319,374	219,954
販売金融債権	22,139	25,495	1年内償還予定の社債	200	-
たな卸資産	183,869	189,286	その他	188,674	202,035
短期貸付金	251	7,019	流動負債合計	773,278	700,584
繰延税金資産	2,007	3,218	固定負債		
その他	89,548	90,236	長期借入金	73,174	177,995
貸倒引当金	△ 10,448	△ 10,207	その他	177,738	185,839
流動資産合計	673,077	736,579	固定負債合計	250,913	363,835
			負債合計	1,024,191	1,064,419
固定資産			(純資産の部)		
有形固定資産	408,234	383,564	株主資本		
無形固定資産	12,435	11,856	資本金	657,355	657,355
投資その他の資産	164,922	180,512	資本剰余金	432,666	432,666
固定資産合計	585,592	575,932	利益剰余金	△ 765,988	△ 750,200
			自己株式	△ 15	△ 15
資産合計	1,258,669	1,312,511	株主資本合計	324,017	339,805
			その他の包括利益累計額	△ 99,832	△ 101,030
			少数株主持分	10,293	9,318
			純資産合計	234,478	248,092
			負債純資産合計	1,258,669	1,312,511

資産合計:前年度末から538億円増加 手元資金を重視する施策による現金預金の増加等が主因。

負債合計:前年度末から402億円増加 生産台数増加による仕入債務の増加等が主因。

純資産合計:前年度末から136億円増加 当期純利益の計上等が主因。

連結損益計算書

科 目	前年度	当年度
	(平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	(平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
	百万円	百万円
売上高	1,445,616	1,828,497
売上原価	1,211,635	1,538,879
売上総利益	233,980	289,617
販売費及び一般管理費	220,060	249,343
営業利益	13,920	40,274
営業外収益	17,020	17,930
営業外費用	17,960	19,255
経常利益	12,980	38,949
特別利益	3,859	1,350
特別損失	5,248	9,878
税金等調整前当期純利益	11,591	30,422
法人税等合計	4,290	11,338
少数株主利益	2,542	3,462
当期純利益	4,758	15,621

連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	前年度	当年度
	(平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	(平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
	百万円	百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー	100,716	103,811
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 22,325	△ 52,590
財務活動によるキャッシュ・フロー	30,881	5,037
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 584	△ 3,381
現金及び現金同等物の増減額	108,688	52,875
現金及び現金同等物の期首残高	154,666	263,453
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	25	22
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	73	112
現金及び現金同等物の期末残高	263,453	316,464

財務諸表(単独)

貸借対照表

科 目	前年度末(平成22年3月31日現在)	当年度末(平成23年3月31日現在)
(資産の部)	百万円	百万円
流動資産	483,981	488,010
固定資産	482,909	476,670
資産合計	966,890	964,681
(負債の部)		
流動負債	670,919	569,672
固定負債	178,701	278,337
負債合計	849,621	848,009
(純資産の部)		
株主資本	111,837	106,276
評価・換算差額等	5,431	10,395
純資産合計	117,268	116,671
負債純資産合計	966,890	964,681

損益計算書

科 目	前年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)	当年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)
	百万円	百万円
売上高	1,148,847	1,472,198
売上総利益	82,514	123,114
営業利益(△は損失)	△ 28,285	△ 7,855
経常利益(△は損失)	△ 26,076	△ 2,887
税引前当期純利益(△は損失)	△ 36,773	△ 6,285
当期純利益(△は損失)	△ 35,684	△ 5,560

会社の概要 (平成23年3月31日現在)

社 名	三菱自動車工業株式会社	発行可能株式総数	9,961,597,000株
本 社	〒108-8410 東京都港区芝五丁目33番8号 TEL: 03-3456-1111 (大代表)	(内訳)普通株式	9,958,285,000株
設 立	昭和45年4月22日	A種優先株式	438,000株
従業員数	連結: 30,709名 単独: 13,554名 ※上記は休職派遣者を含み、執行役員および準社員は含みません。	B種優先株式	374,000株
資 本 金	657,355,059,926円	C種優先株式	500,000株
		D種優先株式	500,000株
		E種優先株式	500,000株
		F種優先株式	500,000株
		G種優先株式	500,000株
		発行済株式総数	5,538,394,433株
		(内訳)普通株式	5,537,956,840株
		A種優先株式	99,000株
		G種優先株式	338,593株
		株 主 数	普通株式 392,522名
			A種優先株式 12名
			G種優先株式 4名

役員 (平成23年6月22日現在)

取締役	西岡 喬*	取締役会長(三菱重工株式会社相談役)	監査役	村本 修三	監査役(常勤)
	益子 修*	取締役社長		木村 英生	監査役(常勤)
	市川 秀*	取締役副社長		三木 繁光	監査役(株式会社三菱東京UFJ銀行特別顧問)
	春成 敬*	取締役副社長		岡本 行夫	監査役(株式会社岡本アソシエーツ代表取締役)
	上杉 雅勇*	取締役副社長		河本雄二郎	監査役(三菱重工株式会社取締役常務執行役員)
	相川 哲郎	常務取締役			
	青砥 修一	常務取締役			
	太田 誠一	常務取締役			
	中尾 龍吾	取締役			
	福田滝太郎	取締役			
	佐々木幹夫	取締役(三菱商事株式会社取締役相談役)			
	矢嶋 英敏	取締役(株式会社島津製作所相談役)			

- (注) 1. *印は当社における代表取締役を示しています。
2. 取締役 佐々木幹夫氏および矢嶋英敏氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
3. 監査役 三木繁光氏、岡本行夫氏および河本雄二郎氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

株主メモ

■ 事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
■ 定時株主総会開催日	6月
■ 同総会議決権行使株主確定日	3月31日
■ 期末配当金支払株主確定日	3月31日
■ 中間配当金支払株主確定日	9月30日
■ その他の基準日	上記のほか必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
■ 公告の方法	電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは東京都内において発行する日本経済新聞に掲載して行います。 (公告掲載アドレス) http://www.mitsubishi-motors.com/jp/corporate/ir/stockinfo/koukoku.html
■ 1単元の株式数	普通株式は1,000株 優先株式は1株
■ 証券コード	7211
■ 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
■ 同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
■ 郵便物送付先・電話照会先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL:0120-232-711 (フリーダイヤル)

※住所変更、単元未満株式買取請求、その他各種手続き等のご請求について

1. 証券会社等の口座をご利用の場合・・・お取引の証券会社等にお問合せください。
2. 「特別口座」に記録されている場合・・・三菱UFJ信託銀行株式会社(TEL:0120-232-711)にお問合せください。

三菱自動車ウェブサイト投資家情報ページ

株式情報、決算情報をはじめ、アニュアルレポートやファクトブック、社会環境報告書などをご覧いただけます。ぜひご利用ください。

http://www.mitsubishi-motors.com/publish/ir_jp/index.html



表紙のイラストの中にはクマが隠れています。探してみてくださいね。

表紙:三菱自動車 デザイン部 熊谷周作

株主通信 ROUTE

三菱自動車工業株式会社
平成22年度(2010年度)のご報告

広報部 平成23年6月22日発行
〒108-8410 東京都港区芝五丁目33番8号
TEL:03-3456-1111 (大代表) <http://www.mitsubishi-motors.com/jp/>